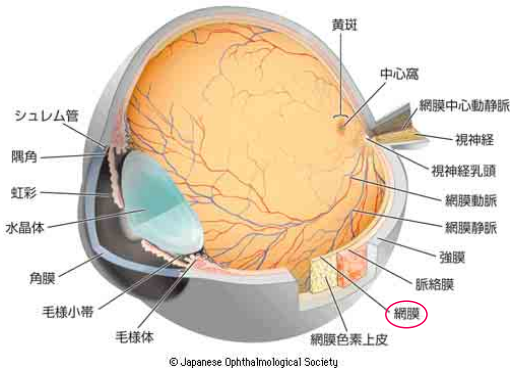
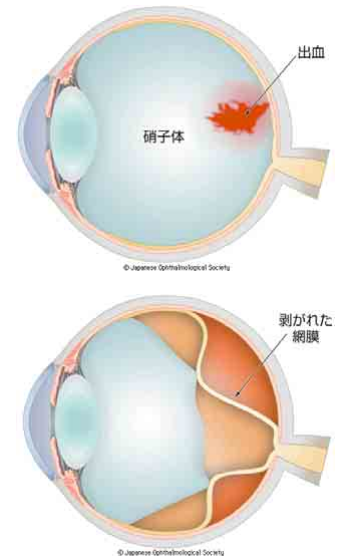


糖尿病網膜症ってどんな病気？



血糖値が高い状態が長く続くと、網膜の細い血管は少しずつ損傷を受け、変形したりつまったりします。血管がつまると網膜のすみずみまで酸素が行き渡らなくなり、**網膜が酸欠状態**に陥り、その結果として新しい血管(新生血管)を造って酸素不足を補おうとします。**新生血管**はもろいために**容易に出血**を起こします。また、出血すると**網膜にかさぶたのような膜(増殖組織)**が張



ってきて、これが原因で**網膜剥離**を起こすことがあります。**剥離した網膜は光を感じなくなり、進行とともにその範囲は拡大し失明に至る**こともあります。(“糖尿病網膜症”が原因で毎年3,000人以上の人が視力を失っています。)

糖尿病網膜症の進行の仕方は？

	状 態	症 状	治 療
単 純 網 膜 症	 <p>網膜内の血流が悪くなり始めた網膜症の最初の段階 (毛細血管の一部がこぶのように腫れる、血管の壁から血液が染み出る、血液中の血漿成分が染み出る)</p>	全くない	投薬治療 (血糖値の改善) (初期の単純網膜症なら、血糖コントロールの改善で軽快することもある)
前 増 殖 網 膜 症	 <p>血管が詰まって網膜の一部に血液が流れていない(虚血)部分が生じてきた段階 (血流が悪い部分の細胞が変化してシミのように見える、血流が全く途絶えてしまう、静脈が異常に腫れあがる、血管から染み出た血液成分が網膜内に溜まり網膜が腫れるなど)</p>	ほとんどない (黄斑部に浮腫が起これると著明な視力低下)	投薬治療 (血糖値の改善) レーザー治療
増 殖 網 膜 症	 <p>虚血部分に酸素や栄養を送り込もうと、新生血管が伸びてくる段階 (新生血管は、大変もろく出血しやすい血管で、網膜の表面や硝子体内に出血が広がると、視力に大きな影響を及ぼす)</p>	視力低下 飛蚊症 失明 (硝子体出血や網膜剥離が起きていなければ、症状がないこともある)	レーザー治療 硝子体手術

糖尿病といわれたら

糖尿病網膜症は徐々に進行しますが、注意しなければいけないのは、**かなり進行しても視力の低下などの自覚症状がほとんどない**ということです。ある日突然、目が見えなくなった、目の前が真っ暗になったとあわてて病院に駆け込み、硝子体出血や網膜剥離と診断されることもあります。「忙しくて通院してられない」、「検査しないと見つからないような段階ならまだ大丈夫」といっている人は、合併症が間違いなく発症・進行する確率が高くなります。**糖尿病と診断されたら、定期的に眼科検査を受け、適切な治療を続けていく**ようにしましょう。



早期発見・早期治療が大切です



※眼科受診する際は、散瞳検査(瞳孔を目薬で開いて眼底をじっくり診る検査)が必要となります。散瞳すると多少見にくくなります。数時間で元に戻りますが、運転は危険ですので車での来院はお控えください。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 **関西ろうさい病院**

尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)

HP <http://www.kanrou.net/>

携帯版HP <http://kanrou-mobile.jp/>

ブログ <http://kanrou.blog106.fc2.com/>

発行人 林 紀夫 編集人 堤 圭介

